

令和5年度小牧市総合教育会議 議事要旨

日 時	令和6年1月26日(金) 15時00分～16時30分
場 所	小牧市役所本庁舎6階 601会議室
出席者	<p>【委員】</p> <p>山下 史守朗 小牧市長 中川 宣芳 小牧市教育委員会 教育長 伊藤 和子 小牧市教育委員会 委員(教育長職務代理者) 加藤 由美 小牧市教育委員会 委員 野中 亮秀 小牧市教育委員会 委員 古田 重紀 小牧市教育委員会 委員</p> <p>【事務局】 (市長公室)</p> <p>笹原 浩史 市長公室長 駒瀬 勝利 市長公室次長 舟橋 朋昭 市長公室 秘書政策課長 梅村 昌行 市長公室 秘書政策課 市政戦略係長 波多野 晴菜 市長公室 秘書政策課 市政戦略係</p> <p>(教育委員会事務局)</p> <p>伊藤 京子 教育部長 矢本 博士 教育部次長 丸藤 卓也 教育委員会事務局 教育総務課長 長谷川 真 教育委員会事務局 学校教育課指導主事兼主幹兼教育総務課主幹 吉田 隆 教育委員会事務局 学校教育課長 采女 隆一 教育委員会事務局 学校教育課管理指導主事兼主幹 鈴木 久代 教育委員会事務局 学校教育課指導主事兼主幹 遠山 史織 教育委員会事務局 教育総務課庶務係長 笹尾 俊介 教育委員会事務局 教育総務課施設係長</p>
傍聴者	0名
配付資料	資料1…構成員名簿・配席図 資料2…児童生徒数の減少等に伴う学校教育の現状と課題について 資料3…本市における学校改築施工実績

内容

1. 市長あいさつ

山下市長よりあいさつ

2. 教育長あいさつ

中川教育長よりあいさつ

3. 議題

(1) 児童生徒数の減少等に伴う学校教育の現状と課題について

資料2に基づき事務局より説明。

山下市長)

現状について説明がありました。児童生徒数の減少が非常に厳しいという状況、そして、学校の老朽化や建替え、修繕等に早期の対応が必要だということをご理解いただいたかと思えます。自由にご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

古田委員)

今の資料を拝見して、ここまで深刻だったのかというのが率直な感想です。小牧市は人口 15 万人程で頭打ちになっていると漠然とした感覚でいたのですが、学校へ落とし込むとこんなに減少していくのかと感じました。

児童生徒数の推計といった数字はあまり誤差のない、精度の高い推計だと思います。この問題を考えていく上では、教育関係者はもちろん、地域の住民の方々にも、現状をまずしっかりと周知して、認識を共有する、そこからすべてがスタートするのではと考えています。

山下市長)

おっしゃる通りです。まさにそこがスタートだと私も思います。

今回、市長と教育委員会と共にこういった状況を認識した上で、新しい学校づくりの会議をスタートするため、議会に予算のご提案をしてお認めいただいて、議会とも認識を共有して議論を始めたというのが、この令和 5 年度というところです。全国的には、学校の統廃合などは多くの自治体で取り組んでいる問題であり、小牧市においても、いよいよ真剣に取り組んでいくこととなります。私も非常に問題意識を強く持っています。建替えともなると期間を要しますので、あまり時間をかけずに、早急に結論を得る必要があると考えています。

ただし、学校というのは色々な方の関心が高いものですから、様々な地域のご意見があると想定されます。今おっしゃっていただいたように、まずは現状を広く市民の皆様と共有し、問題意識を持ってもらうことから始めるのが大切だと思います。是非、そのように進めていきたいです。

中川教育長)

実は、新たな学校づくり推進計画を進める段階で、私から PTA 役員の方々や校長会へ、この問題を投げかけておりました。やはり、これは検討してほしいということでご理解をいただいています。

地区別でいいますと、やはり篠岡地区については、地区の皆様にお示ししなくてはならない時期がいずれ来るだろうと考えています。令和 5 年 12 月に、区長会の情報交換の場で現状を説明し、差し迫った状況であることはご理解いただきましたが、これから先、具体化を進めていく中で、役員だとかの立場にない方々へお示しする道を早急につくらなくてはならないと思っています。

山下市長)

おっしゃる通りですので、この状況については広く周知する必要があります。結論からどんと出すのはハレーションを起こしかねませんので、まずは現状を広く周知する段階を踏まなくてはならないと考えています。

私も篠岡地区の区長会などで、すでにこの話はしています。資料にあるとおり、篠岡地区は今後 5、6 年で、すべての小学校の 1 年生が 1 学級になってしまいます。こういう状況を理解されれば、統廃合もやむなしという向きで、反対意見は少ないのではという感触があります。ただし、総論賛成ということはあっても、いざ各論に入ると、どこの学校をどういう風に統廃合していくのか、なくなる学校はどこなのかとなると、色々な意見が出てくる可能性が当然あります。難しさはその辺りにあると思います。議論が進むと、色々な意見や、反対意見が出てくる可能性

があります。しかし、この議論を進めないわけにはいかないのが現実ですので、市として強い危機感を持ち、ご理解をいただいで進めていくしかないと考えています。

野中委員)

正直、この児童生徒数の推計などにはかなり驚いています。

私の居住区では児童生徒数の著しい減少が見込まれない地区ということもあって、私や周りの保護者の方には危機感が全くない状態です。ただ、篠岡地区では各学年が1学級のみ、これから必ずなっていくということで、自分でもイメージしてみましたが、例えばこどもにクラス替えの話や、部活動、委員会、そういった交わりの話ができなくなるのかなと思いました。これは教育の観点からいって、寂しいというか、どうなのかなと思いました。先程、保護者の方や先生方、地域の方にお話しされているということでしたが、可能であれば、現在、1学年1学級の児童生徒の声を聞いてみたいと思いました。クラス替えがないのはどう思うか、友達が学校に少ないのはどう思うか、聞いてみたいと思いました。これに伴って、地域の方へ、こども達が小規模化で寂しい思いをしているんだよと伝えることができれば、統廃合という議論のプラスになるのではないかと考えています。

山下乡長)

ありがとうございます。こども達の意見をということも重要だと思います。

1学年1学級の弊害として、クラス替えができないです。また、児童生徒が少ないわけですから、部活動においても、人数が足りない、試合ができない、種類も限られるとなります。市内の学校からサッカー部をつくってほしいという陳情をいただいたこともあります。児童生徒数によるものは中々難しいです。学校を超えた部活動も検討されていますが、やはり1学年1学級しかないということは、教育面の課題や部活動の課題があると思います。その辺り、現状はいかがでしょう。

中川教育長)

資料1の7ページにもありますが、1学年1学級はこども達の間人間関係を固定化してしまうリスクがあり、一旦人間関係が崩れてしまうと改善しづらいことが一番大きな課題です。

例えば、篠岡小学校と篠岡中学校は同一の学区のため、小学校1年生から中学校3年生までの9年間を、ほぼ同じ人間関係の中で生活していくこととなります。非常に深いつながりができる一方で、一旦こじれると改善は困難です。これは巾下地区においても同じご意見があります。

それから、卒業したこども達の様子を尋ねてみると、集団への対応ができずに萎縮してしまうという話を、保護者の皆様から聞きます。小規模な学校で温かく見守られながら育ってきたものが、皆バラバラになって高校へ行って、様々な中学校出身のこども達がいるところへポンと飛び込むことになるためです。社会が目まぐるしく変化していく中で、色々な人と接していくことで、対応力というか、「生きる力」を義務教育段階で育てるという観点からすると、適正な学校規模というのは必要だと痛切に感じているところです。

山下乡長)

クラス替えができないということは、やはり学校運営の観点で非常に課題がありますね。クラス替えで人間関係を調整される運営もあったかと思います。また、ずっと同じクラスで持ち上がって行って、いざ違う人間関係の中に入ろうとすると、中々馴染めないといった課題、大きなリスクがあります。やはり、一定規模があり、学校としてクラス替えがあり、色々な人と交流ができる、そういう中で成長できる面もあるかと思います。課外活動などの面でも、人数が限られる中では非常に厳しさがあるだろうと思います。

伊藤委員)

10 数年ぐらい前に、子ども達がサッカー一部だったのですが、急に対戦相手が出場できなくなりましたというお知らせを受けたことがあります。対戦相手の人数が集まらなくて不戦勝となりました。子ども達も、私達保護者も、とてもショックでした。一応、勝ち上がることになるのですが、子ども達も複雑な表情でしたし、対戦相手の方のことを思うと、どういう気持ちだったのだろうと、いまだに思い浮かべるほど印象に残っています。こういうことが将来、我が身にも降りかかるかもしれないと、その時、保護者の皆様と共有しました。でも、伸びゆく小牧に、こういったことが起こることはそうそうないのでは、というのが意見の大半でした。10 数年前の話ですが。

子ども達は成長していくわけで、時は止まりません。例えば、小学校 6 年生の最後の試合というのは、その時それ 1 回限りです。急に出場できなくなった対戦相手のような思いをしている方が、思ったよりいらっしゃるということはこの職務についてから実感しました。あちこちの学校で、部活動が 3 種類しかないなどと聞くと、もう少し増やせないかと思っても、少ない人数を振り分けると、チーム内の人数が減ってしまうので致し方ないとなります。学校を超えて 1 つのチームとして扱うことも考えていかななくてはならないと思いました。

このように、すでに色々な課題が生じているとは思いますが、やはり子どものことを 1 番に考えて進めようと思えば、自ずと同じ方向を向くことになるのではないのでしょうか。色々な反対意見は出てくるとは思いますが、やはり早急に推し進めていくべきだと考えています。

加藤委員)

伊藤委員がおっしゃった、子どものことを 1 番にということが、本当に重要なキーワードだと感じています。とにかく、これから育ていく子どものため、その子どもたちが健やかに色々な経験をして大人になっていく、そういう力をつけていくということが非常に重要です。先程、地域の方への周知という話も出ましたが、本当に市民の皆様が今この状況を理解して、理想としては、市民の皆様の側から、学校のことを考えなくてはならない、統廃合も必要で、こういう風にした方が良く、といった考えが出てくると良いと思いました。PTA の方や区長会の方へ話をしたということでしたが、これから学校で学ぶ子ども達を育てていくであろう若い世代にも、同じように一緒に考えていけるような場が必要なのではと思いました。市長がおっしゃったように、決めてからポンと出すのは、納得できないところもたくさん生じるかと思います。市民の皆様の考えが上手く持ち上がって、それを形にしていく教育行政になると良いのではと思っています。

保育園でも 1 学年 1 学級のような小規模な園がいくつかありました。子ども達の交流が少ないまま過ごすのですが、やはり物足りない思いをしているのだろうなと思って、年齢を超えた縦の関係で活動するなど、どうしたら良いか考えて、工夫しながら保育をしたことを思い出しました。同じように、子ども達が力をつけていくにはどうしたら良いのか、考える時に来ていると思いました。

山下市長)

子ども達が大前提ということは、私もその通りだと思います。児童生徒数の減少が止まらない中で、子ども達の望ましい教育環境のあり方という観点から、早期にそれをより良い環境にしてほしいということだのご意見伺いました。

こういった視点は大前提として、私からはここで財政面の話をしたいと思います。子ども達の教育環境のためにも統廃合などの検討が必要ですが、校舎の老朽化への対応もまた必要となります。一方で、学校だけでなく、現在、市民会館の改修も行っています。ホールなどの音響設備となると億単位の費用がかかりますので、もう少し今の設備を長く使えないか検討してみたり、消防車や救急車も高額ですから、何とかやりくりしたりしています。というのも、財政状況が非常にひっ迫しているためです。そんな中で、今ある市内小中学校 25 校すべてを建て替えること

は現実的ではありません。資料2の11・12ページになりますが、校舎の耐用年数を80年と想定した場合、耐用年数までの残りの期間を考慮して25校の配置を維持するためには、ざっくり計算して2年に1校建て替えることとなります。これは現実的ではありません。適正規模、適正配置を考えることが、財政的な面からも必要だということを申し上げておかなければなりません。規模を小さくしてでも、今あるすべての学校を建て替えた方が良いとおっしゃる方がいたとしても、財政上、不可能だということをはっきり申し上げなくてはなりません。人口が伸びて税収も伸びて、学校を増やしていく時代もありましたが、今となっては同じだけの学校を建て替えることは不可能です。これはまず押さえておかななくてはならないと考えています。

どのぐらい費用がかかるのかということについては、資料3のとおりです。近年建て替えた、小牧小学校、味岡中学校、小牧南小学校を、参考例として挙げています。設計や工事の単価がかなり上がってきています。小牧小学校から小牧南小学校までの約10年間で、1.5倍前後の上昇があります。肌感覚としてもご理解いただけると思いますが、かなり建て替える費用は上がっています。資材の費用は円安の影響もありますので、今後のアメリカの金利や景気動向によって下がることもあるだろうと思いますが、人口減少の中で、建設業界の人件費が下がるイメージは持てない状況にあると思います。今後、建て替える費用が下がることはないだろうと認識しています。そのような中で、現在、米野小学校の建て替えを実施していますが、これは、必要に迫られて実施するもので、何とか費用を圧縮できないか工夫をしているところです。

ここで、資料2の11ページに戻っていただきたいのですが、築60年以上経過した学校がいくつもあります。三ツ淵小学校や、篠岡小学校、北里小中学校ですね。これらの学校を耐用年数までに建て替えようと思うと、2年に1校のペースで建て替えなくてはなりません。これは不可能です。毎年10億円、20億円かかるとして、これは財政的に対応できません。設計や工事期間の問題ももちろんあります。では、あくまでもイメージですが、5、6年に1校建て替えたとしても、今度は、表中の耐用年数までの残年数が31～50年の学校が、耐用年数の80年を迎えてしまいます。その間に児童生徒数の減少も深刻化するでしょう。

どれだけ統廃合するのかは、通学距離や児童生徒数などを考えることとなりますが、老朽化や財政面で考えた場合、5年に1校のペースで30年に6校が限界というイメージではないかと想像しています。そうした中で、耐用年数とそれぞれの地区の状況を合わせて考えると、自ずと見えてくるものがあると思います。例えば篠岡地区ですと、元々、篠岡小中学校しかなかったところに学校が増えた背景がありますので、ある意味、元に戻ってきています。地区内に比較的新しい学校があるため、これをどう考えるかは議論が必要だと思います。

つまり、今後10校20校と建て替えできるような財政状況ではないだろうなと思っています。私としては、今日の会議の場で、財政面についても皆様にご説明してご理解いただく必要があると思います。何ら確定的なことはありませんが、私見も交えてこのような状況だと申し上げました。

伊藤委員)

米野小学校の建て替えが公表されて、一般の方が知るところになりました。すると、意外にも子育てが終わった方から興味津々の様子で、「次の建て替えはどこなの？」という会話を聞きます。そういった方の多くは、体育館などで日頃活動されている方でした。地域の核ともいえる学校のことがとても気になるということで、それを思うとやはり、小牧市民全体で考えて、勉強会や講習会といったものが必要だと思います。一方で、人は興味のないことからそっぽを向くところがあります。それでも皆で考えていかなければならないと思います。他の学校の建て替えの際に、私は建て替えの話聞いてなかったという方が、意外に多くいらっしゃいました。該当する地域の方は見学できるけれど、他の地域に住んでいても見学できないだろうかという声もありました。このところ建て替えが続いて、次はどこだろうと関心が高まっていますので、これを機に、早急に取り掛かれると良いと思っています。

山下市長)

ありがとうございます。来年度早急に、まずは周知して課題の認識をいただくことを出発点にスタートしたいと思います。タウンミーティングの場も活用していきたいです。

この課題は、教育委員会からも表に出てもらって、教育の観点から、子ども達にとって望ましい教育環境のあり方を何より第一に議論する中で、その次に財政面の問題を議論した方が良いかと思っています。教育委員会からも市民の皆様にご認識いただく機会を設定いただいて、集会だとかのある程度集まった場で、直接説明した方が良いかと思っています。

中川教育長)

児童生徒数が急激に下がっている地区を優先順位の上位にしながら、地元説明会などで現状をお話する場を設けなくてはならないだろうと思っています。施設の老朽化の観点もあわせて、篠岡地区、北里地区、巾下地区については、何らかの形で会議を設定して周知したいと思っています。

山下市長)

そうですね。児童生徒数の減少が深刻ではない地区もありますが、やはりこの問題は全市的に、広報誌を使うなどして、検討していく必要があるという議論だったかと思っています。幅広く、市民が集まる中で周知していく必要があるかと思っています。タウンミーティングのようなイメージですね。私も出席しながら、教育長にもご出席いただいて実施できると良いかと思っています。

古田委員)

財政的な話題は、教育委員会だけではコメントがしづらい部分もありますが、1つ1つの学校を今と同じように残すことは不可能だということは、はっきり説明した方が良いかと思っています。今の時代は変化が速いので、何も変えずに何十年も同じ施設を使うことはできないかと思っています。例えば、先般のトイレの改修ですとか、相当多額の費用がかかりますが、当たり前がどんどん変化する中では必要な対応になります。他にも、耐震やITの設備や、色々な新しい課題が生じるとか、今ある施設をきちんとアップデートしていくためにも、ある程度、財政にゆとりの部分が必要です。苦しい財政状況が目に見えているので、たくさんの方に分散させるより、集中的に資源を投資することできちんとした教育環境を維持するのは、やむを得ない選択だと私は思います。

山下市長)

おっしゃる通りです。学校でこういうやり方をしよう、福祉はこんなサービスがあるといい、巡回バスはこうしたいと、色々な要望や課題があります。これら全部を満たすことは難しいので、優先順位をつけて判断しています。もし25校すべて建て替えるなら、福祉サービスが低下するけれど、どちらを取りますかという状況にきています。全校建て替えてほしい、うちの小学校を残してもらわないと困る、福祉のサービスも必要といっても、財源は一緒ですから、すべてを実現することはできません。成り立たない、ということを手く伝えなくてはいけないので、先程は全校建て替えることが不可能だと申し上げました。責任者として、不可能なこととは不可能だということをお話なくてはならないかと思っています。先程のように、古田委員にご発言いただいて、大変ありがたいかと思っています。

野中委員)

一保護者としては新しい学校がいっぱいあると嬉しいかと思いますが、現実問題、難しいかと思っています。やはりこれから統廃合を考えなくてはならないかと思っています。既存の校舎を使うとい

うことも 1 つの手段だと思えます。一方で、去年、行政視察で統廃合をした学校を訪れましたが、ハード面で学校施設を新しくすることによって、地域の方や保護者の方と上手く議論できたという話を伺いました。こういう素敵な学校施設にするので、このように良くなりますよ、といった感じですね。学校は地域の拠点、スポーツの拠点、防災の拠点と、様々な役割がある施設ですから、斬新さのある施設にするのも 1 つの手段だと思えます。また、使わなくなった学校のその後の利用方法も、地域の方としっかり議論できたら良いと思えました。

山下市長)

環境がより良くなるという説明方法は、理解を得るための 1 つの良いモデルだと思えます。跡地の問題というの、統廃合の課題の 1 つだと思えます。ここで申し上げておかななくてはならないことが、統廃合で学校がなくなるので、そこに何か新しいものをつくるということはできないということです。学校がなくなるから何か代替施設を貰えないかというのは、今どうしても必要な施設というわけではないということだと思えます。この財政状況でそういったものを検討することは困難ですから、避けたいところです。新しいまちづくりの観点で、跡地の利活用の視点は非常に有効だとは思いますが、土地が空くから新しい何かをつくるといった、代替施設ありきの論調は避けたいです。学校の統廃合と、跡地の利活用は、わけて考えるべきだと私は思っています。ただし、防災拠点としての役割や、地域でスポーツ活動に利用しているケースもありますので、学校教育の役割だけではない多面的な機能を、統廃合後、どのように代替していくのかという議論はもちろん必要だと思えます。体育館を残すのか、グラウンドをどう活用していくのかなど、必要なものは残していくことも議論の中で生じるかと思えますが、費用を投じてあれこれ良くすることはできないので、工夫が必要になるだろうと思えます。でないと、新しい校舎が建設できないですからね。優先順位をつけて取捨選択する、今やそういう時代になってきたのだと思えます。福祉の分野といいますか、扶助費も膨らみ続けて財政を圧迫しています。これらは切り捨てるわけにはいかない分野ですから、ご理解いただいて工夫していかなくてははいけません。もちろん、新しい学校によって良くなる事柄はできるだけ話題にしたいと思えます。先程おっしゃっていただいた IT に関わる設備なんかは、こども達にとってもより良いことですからね。

加藤委員)

今あるものがなくなるということには、とても色々な思いが交錯するものだと思えます。

やはり、市として、小中学校をどのように再編するのか、長期的なスパンで明確に示す必要があると思えます。ここは建て替えて、ここはそのまま残して、この地域とこの地域は学区を再構築して、といった検討を明確にしていく必要があると思えます。先程、伊藤委員の話で、次はどこが建て替えられるのか気にする声があるとのことでしたが、おそらくその思いの中には、どの学校も順番に建て替わっていくのだろうという思いがあるのではと想像しています。そのため、市全体の小中学校を再編して、建て替えと統廃合を考えていく、という長期的な見通しを示すことができると、それに向けて、市民の皆様も一緒になって考えていくことができるのではと思えました。元々、小牧市の小学校と中学校の学区は非常に複雑な組合せだと思っていましたので、そういったところも含めて、どのように再編するのかという視点も含めていく必要があると思えます。

山下市長)

明確な見通しではありませんが、現実的に見えてくるものはあるかと思えます。資料 2 の 11 ページにあるとおり、耐用年数まで 30 年を切った学校がいくつかあります。そして、児童生徒数の減少による、学級数や部活動の問題が想定される学校があります。そのように考えると、まずは篠岡地区の検討が挙げられると思えます。それから巾下地区と北里地区ですね。もちろん、小牧地区・小牧南地区・味岡地区にも個別の課題はありますが、ある程度の児童生徒数が見込ま

れるため、優先度は低いと考えています。老朽化の度合いなどから、そのように単純に読み取れるものがあると思います。加えて、人口動態や児童生徒数の推計、学区の問題、通学の問題がありますので、総合的に検討する必要があると考えています。

中川教育長)

新たな学校づくり推進計画策定に向けての予算をいただいておりますので、学識経験者の方々と交えた検討委員会で、ある程度の道筋を立てていきたいと考えています。また、教職員を交えた調査検討部会も設けましたので、そちらでも十分議論して、令和6年の秋までに形にしたいと考えています。並行して、機会を見つけては、自分を中心に、地元へ現状の周知を図っていきたくとも考えています。具体化が進み始めた頃には、首長部局との調整が必要になる場面が出てくるだろうと考えています。

山下市長)

当然ながら現場のご意見は非常に重要ですから、そこも含めて、教育委員会全体として議論を進めていただければと思います。ただし、先程から申し上げている財政面の状況は、制約条件になることもあるかと思えます。万が一、まるで理想論のようなプランが提案されて、実現できないとお返りするようになってしまえば、議論が噛み合わない状況となってしまいますので、今日の総合教育会議の場で申し上げた、全校を建て替えることは不可能だというような現状は踏まえた上でご議論いただく必要があるのではと考えています。学校現場の課題の検討と、財政状況を踏まえた公共施設の検討が、上手く両輪となって議論が噛み合う形で進めていければ良いと考えています。その過程で、必要に応じて総合教育会議を開催していきたいと思しますので、その際はよろしく願いいたします。

いずれにしても、こども達のより良い教育環境の整備は非常に重要な課題ですから、できる限り私も努力して参りたいと思えます。引き続き、教育長はじめ教育委員の皆様にご指導いただきたく思いますので、よろしく願いいたします。

その他

本日の会議内容について、委員確認後、市のホームページで公開することを報告。